

# 平成29年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園  
砂川第二幼稚園

当園ではこの度、平成29年度の砂川第二幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

園是「あかるく・すなおに・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

## II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- \*教育、保育活動を充実させる
- \*教職員の協力や連携体制を強化する

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	教育目標が反映されるよう保育目標を定め、園の方針や目標について、保護者の理解を得るように取り組んでいる。	B	・毎月、学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを「園だより」「学年だより」に載せて、保護者の方にお伝えしている。 ・今後も、子どもの様子やクラス全体の様子などを保護者の方にお伝えする機会を充実させ、園と保護者との相互理解を深めていけるよう検討する。
	教育課程の編成	教育目標である「明る	B	・領域「人間関係」の内容である「他の人々と親しみ、

		く素直に健やかに」が日々の教育活動に反映されるようそれらに各領域に示すねらいや内容を結びつけて教育課程を編成していく。		支え合って生活する為に自立心を育て人と関わる力を養う」ということに重点を置いて教育目標を達成する基盤としている。 ・今後、教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	A	・園長、副園長そして先輩教諭からの助言や評価を受けて、それらの意見を取り入れて自身に生かしている。 ・必要に応じて教職員間での話し合いを行い、保育の向上に向けて取り組んでいる。 ・今後さらに、保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。(指導案の反省、クラスの状況報告など)
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	A	・農園で旬の野菜や果物を収穫し、クッキングに用いたり、おやつにいただいたりすることで、収穫の喜びを味わえるようにする。 ・今後も、自然物を工夫して遊びの素材にし、戸外遊びでのボールや砂場遊びの遊具、絵本などのさらなる充実を検討していく。 ・その日の計画、具体的な内容をイラストなどをいれながらわかりやすく掲示し、いろいろな活動に興味を持って取り組めると共に予測をたてて行動できるよう促している。
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や発達に応じた関わり方をしている。	A	・当番活動を通してお互いの存在の必要性に気づき、役立つことの喜びにつなげる。 ・一人一人の個性や良さを伸ばしてあげる。 ・子どもたちの思いやかんがえを聞き、自信をもって行動できるように見守る。 ・異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりをもてるような取組を検討していく。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった援助をするように務めている。
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	・幼児のことについて、教師間での話し合いを密に行い、情報共有に努めている。 ・その場で配慮が必要な時には、近くにいる教師が子どもに思いやりの気持ちと言葉がけをしていく。 ・保育に関して、教師間でお互いに相談し合い、幼児にとって楽しい保育ができるように取り組んでいる。
7	研修・研究への	配慮が必要な幼児に	B	・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などに

	取組み	対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。		ついて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・必要に応じて専門機関に相談し、保護者と密に連携をとるようにしている。
8	安全衛生への配慮	トイレの清掃やトイレの正しい使い方手洗いの仕方を具体的に示している。	A	・トイレの使い方について、スリッパの並べ方やトイレットペーパーの使い方等を子ども達に伝え、自主的にできるように取り組んでいる。 ・手洗いやうがいの習慣が身に付くよう取り組んでいる。
9	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解し合うと共に、保護者の方にも配布し共通理解を持てるよう取り組んでいる。 ・定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を深めるよう取り組んでいる。 ・感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
10	安全管理体制の整備	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	A	・毎日の掃除をする中で、危険なところを意識して確認するようにしている。 ・遊具の下に安全マットを敷き、鉄棒やジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。 ・今後は、定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
11	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	B	・防犯ベルを設置し、門を施錠するなどし、防犯体制を整えている。 ・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
12	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	B	・登園時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。 ・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	A	・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるよう取り組んでいる。 ・日々の電話連絡や、また連絡票を活用して、保護者の方と連携がとれる様になっている。 ・保護者の協力が必要な場合は、具体的な協力のあり方について話しあっている。

#### 【評価の基準】

A	十分達成されている
---	-----------

B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

#### IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また、地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているかなど、教職員間で話し合い見直しを行う。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを共有し合う。
3		研修に積極的に参加し、知識などを学ぶとともに、教師間で情報共有し、現場で実践できるように取り組む。
4	保育環境の充実	さまざまな思いやイメージなどがしやすい遊具や材料などのさらなる充実を検討していく。
5		園児たちのたての繋がりを大切にし、年齢による関わり方を楽しめるような活動など、工夫した取り組みを充実させていく。
6	保護者との連携の強化	ご家庭におけるお子様とのかかわり方や様子などを把握について充実させ、子どもたちの理解を深めていく。
7	防災対策の強化	避難訓練を実施することで、全員で避難経路や手順を確認しあい、スムーズに実施できるようにする。今後は、予期される地震発生を想定した訓練に取り組む。
8	安全管理体制の強化	感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9		定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
10		専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。

#### V. 学校関係者の評価

先生方が毎日楽しく仕事に取り組み、子ども達に接して下さっていることで、園全体が明るく活気があふれています。これからも子ども達にとって大人社会を代表する存在として、子ども達に学んで欲しいことを行動で見せる役割を忘れず、続けて欲しいと思います。子ども達が今後も喜んで登園し、安心して過ごせるよう、園全体で見守る体制を持てるよう努めて欲しいと思います。